

テミアの栄養強化・初期配合飼料給餌を省略し作業の軽減を行った。

3. 照度1万ルクス以下の施設での大量幣死の原因は真菌症であった。
4. 130万尾の種苗をもとに合計5回の間育成を行い46万尾の放流種苗(C3~C6)を生産した。
5. 中間育成の稚ガニのシェルターとしてサンゴ砂を入れ、その上にキンランを垂直に設置することで中間育成時の生残率を上げた。
6. 今年度は与那城町地先の海中道路北側の干潟水域にて、第1回次130千尾(平均全甲幅7.0mm)、第2回次46千尾(8.4mm)、第3回次103千尾(7.7mm)、第4回次180千尾(7.2mm)計459千尾の稚ガニの直接放流を行った。
7. 稚ガニの放流数は過去最高の数であった。
8. 放流稚ガニは放流後数日間で放流区域内の密度が急激に減少し、逸散がかなり早かった。
9. 天然稚ガニの定着は3月~12月までみられ5・6月頃と10月頃にモードがみられ、前期定着群は、1993年のそれより密度が高かった。
10. 干潟でみられるタイワンガザミは2cm以下の個体が多い。
11. 与那城町、石川市、勝連、沖縄市、中城漁協の漁獲量調査を行った結果、1994年の漁獲量はそれぞれ15.6トン、4.6トン、0.9トン、9.0トン、3.9トンであり、最も与那城町漁協が多かった。
12. タイワンガザミの1994年の平均単価は石川市漁協が855円と最も高く、ついで中城668円、沖縄市582円、与那城町540円、勝連415円であり、全漁協で1993年の平均価格を下回った。
13. 与那城町漁協に水揚げされるタイワンガザミは、雌雄とも夏場に小型個体が、冬場に大型個体が多く漁獲される。
14. 与那城町漁協において、1994年は1993年同様1992年より漁獲努力量が減少したにも関わらず、漁獲量、CPUEが増加したことから、与那城海域のタイワンガザミ資源量は増加したものと考えられた。
15. オキナワフグによるタイワンガザミ稚ガニの食害試験の結果、全甲幅3cm以上の稚ガニは、食害されにくくなることから放流サイズの検討をする必要があろう。

文 献

島袋新功(1990) 平成元年栽培漁業技術開発事業調査報告書. ハマフエフキ・タイワンガザミ. 沖水試資料(111), pp. 57.

島袋新功(1991) 平成2年栽培漁業技術開発事業調査報告書. ハマフエフキ・タイワンガザミ. 沖水試資料(113), pp. 67.

佐多忠夫 (1992) 平成3年栽培漁業技術開発事業調査報告書. ハマフエフキ・タイワンガザミ.
沖水試資料(115), pp. 69.

佐多忠夫 (1993) 平成4年栽培漁業技術開発事業調査報告書. ハマフエフキ・タイワンガザミ.
沖水試資料(116), pp. 58.

佐多忠夫 (1994) 平成5年栽培漁業技術開発事業調査報告書. ハマフエフキ・タイワンガザミ.
沖水試資料(117), pp. 52.

渡辺利明 (1989) 昭和63年栽培漁業技術開発事業調査報告書および栽培漁業技術開発調査報告書
(昭和59-63年度). ハマフエフキ・タイワンガザミ. 沖水試資料(109), pp. 114.

平成元年～平成6年の総括

1. 種苗生産

【目的】

タイワンガザミ種苗（C1）を100万尾生産する。

【方法】

親ガニとふ化幼生

平成1～6年度の親ガニは、石川・与那城・中城・羽地・勝連・沖縄・本部のカニ簗漁で漁獲されたものを購入した（昭和58～63年度には競り前の干出親ガニを購入）。卵質悪化防止のため水揚げ直後に海水タンクに入れエア―通気を施し輸送した。

表10 親ガニの入手先

入手先	年 度						入手先	年 度					
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
羽 地	○	○	○	○	○		与那城	○	○	○	○	○	○
本 部						○	沖 縄			○			
石 川	○	○	○				中 城	○		○			

親ガニは1個体ずつ砂を敷いたゲージで流水飼育を行った。なお、平成6年度には卵への真菌感染を防止するためゲージ内の砂は取り除いた。

幼生は、親ガニを入れた水槽（0.5m³）でふ化したゾエアを海水と共に生産水槽に収容した。ふ化水槽（0.5m³）はふ化前日夕刻に止水・微通気に設置し、真菌の感染を防ぐためホルマリンを13cc添加した。

表11 タイワンガザミ種苗生産に利用した餌料

餌 料	年 度						餌 料	年 度					
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
クロレラ	○	○	○	○	○	○	配合飼料	○	○	○	○	○	○
ワムシ*	●	●	●	●	●	○	珪藻	○	○	○	○		
アルテミア*	●	●	●	○	●	○	初期配合飼料	○	○	○	○	○	
アサリ・オキアミ	○	○	○	○	○	○	天然プラクトン						○

●:栄養強化

種苗生産施設

種苗生産に利用した施設は、屋内コンクリート円形水槽（50・100m³）・屋外クロレラ種保存水槽（20m³）であった。平成6年度後半には屋内種苗生産施設のFRPスレート屋根を一部交換した。